

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年十月度 入選句 (投稿総数三千二百五句・小中学投句数二千五百五十四句)

特選

学校のへちまのつるが二かいまで 大垣市 神村 奏多(小三)

種から育てたへちま。最初は小さな小さな芽。次第に、太陽の光と水と栄養でぐんぐんと育つていったへちま。くきが伸び、おおきな葉をつけ、つるを伸ばし、今では二階まで伸びてきたのですね。きつと立派なへちまの実をつけたことでしょう。校舎の南を這うようにして育つたへちま。作者の驚きと、へちまの生命力が表現された俳句です。

すすきがね風にふかれて空をはく 大垣市 炭竈 玲亜(小四)

「すすきが空をはく」という発想がとても面白いです。すすきの穂が風に吹かれると、動物の尾のように見えます。ですから、「すすき」を「尾花」とも言います。すすきの穂で、空をはき、雲やちりをきれいにしているの、秋には澄み切った青い空が見られるのかもしれないね。広がりのある俳句です。

あかとんぼぼくといつしよにかえろうか 大垣市 秦 壮汰朗(小一)

家族やお友達と遊んだり、勉強をしたりして、楽しい一日を過ごしたのですね。ふと見ると、周りにあかとんぼが数匹。あかとんぼも、おにごっこをして遊んでいたのかもしれない。でも夕暮れも迫っています。「ぼくも帰るよ、いつしよに帰ろう」という作者の生き物への優しいまなざしを感じる俳句です。

秀逸

秋の空クレヨンで引く白い線 大垣市 川瀬 那奈未(小六)

秋の空飛行機雲でまっ二つ 大垣市 衣斐 友哉(小六)

あさがおがまださいているぼくのはち 大垣市 なかじま たいち(小二)

あるくたびばったがはねるかえりみち 大垣市 北村 蓮(小一)

とんぼくんぼくもいつしよにとびたいな 大垣市 増田 樂(小一)

池にうくシャワーヘッドは蓮つくる 大垣市 神徳 優奏(小五)

鳳仙花パツとはじてたねとれる 大垣市 大和田 真瑚(小三)

どこかからさびしい気持ちみみず鳴く 大垣市 神村 奏多(小三)

歴史本三冊読んだ長き夜 大垣市 眞下 直也(小六)

台風で飛ばされていく屋根瓦 大垣市 中村 滯斗(小六)

入選

秋の空飛行機雲が交差して 大垣市 幸野 桜子(小六)
 タイ研修汗を流して腕ずもう 中津川市 関口 陽良人(中三)
 あかとんぼみんなあつまりおにごっこ 大垣市 たなはし なな(小二)
 うんどうかいともだちぬいてテープきる 大垣市 さたけ えいた(小二)
 がんばったうんどうかいはあめあがり 大垣市 林田 芽衣(小二)
 あかとんぼいえにかえるねまたあした 大垣市 和田 悠生(小二)
 まつかつかすこしこわいなひがんばな 大垣市 本田 蒼河(小二)
 あかねぞらどていっばいにひがんばな 大垣市 古川 颯人(小二)
 すすむしがわたしにうたのプレゼント 大垣市 しみず かな(小二)
 運動会てるてるぼうず晴れになれ 大垣市 松原 夏帆(小五)

入選

罫雲はしった後のすなぼこり 大垣市 高田 律弥(小五)
 食の秋うそをついてよ体重計 大垣市 高木 果歩(小五)
 とうがらしあついほのおでやけそうだ 大垣市 岡田 はるき(小三)
 おつきさまだんだんくもにかくれてく 大垣市 加代 幸汰(小三)
 あかとんぼまってよまってとまってよ 大垣市 三島 一輝(小二)
 ゆずぶろにはいったとたんあっちち 大垣市 安田 橙矢(小二)
 台風でそわそわしているお父さん 大垣市 佐々木 唯名(小四)
 つな取りでおうえんしてるあかとんぼ 大垣市 炭竈 玲亜(小四)
 さんぼちゅうおおかまきりがたまごうむ 大垣市 川瀬 心晴(小四)
 堤防の兩岸に咲くひがん花 大垣市 安田 真菜(小六)

選者吟

芋の露宇宙の色を見せてをり

恵理